

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境と地域住民との交流の下で、ゆっくり、一緒に楽しく」を基本に入居者の残存機能を活用できるような環境とのケアを目指した理念を作り上げている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関・リビング・事務所の中でも述べ、理念の実践に向け、努力している		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	近隣スーパーに買い物に行っては、会話を多く持ち理念を含めた思いを伝えるよう心掛けている。又、運営推進会議を通してさらに理解してもらえよう取り組んでいる。	○	より多くの人に理解して頂けるように回覧板の活用を考えている
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者様と、近隣のスーパーや散髪屋を利用し顔なじみである。又、近隣者が毎日のように訪問され、おすそわけや畑仕事を自発的にしてくださるような付き合いができています		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動として、ゴミ集積所の清掃や、おはぎの配布等、入居者と共に行い、交流に努めている。又地域ボランティアの受け入れや、中学生のインターンシップ受け入れを行っている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣の一人暮らしの方に普段より気軽に挨拶し、困った事があったらいつでもどうぞ、と声をかけ相談しやすい環境作りを心掛けている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はスタッフで話し合いながら作成。前回の外部評価の改善点はスタッフで話し合い、取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは、包括支援センター、家族、地域の方々、利用者様が参加。ホームの活動状況や利用者の暮らしぶりを報告したり、家族の要望や思いを聞き出せる場となっており、向上に向けとくんでいる。又、火災の際非難援助を依頼する事が出来た。	○	地域の消防団の方にホーム見学を依頼している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護課担当者の訪問もあり、意見を頂くようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	スタッフ会議や勉強会や、講習会で学び、知識を得よう努めている。利用者の中には成年後見制度利用についてアドバイスし、活用された方もおられる。又、他にも利用者の中に活用を検討したほうが良い方もおられ、社会福祉士に相談したこともある。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル作成し、勉強会で学習しながらスタッフ個人の意識を高め、お互い注意を払い、日々防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用者、ご家族様と十分に話せる時間を設け、不安や要望を聞きだし、ご理解いただけるよう説明したうえで、契約している		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情箱を設置し、室内にも相談窓口者の名前や、外部への相談窓口TEL記載のパンフレットを貼っている。運営推進会議時にも話しやすい雰囲気作りをし、意見を頂いている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りや面会時に報告している。病状の特変時には随時電話連絡し、海外で仕事をされている家族にはメールにて報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置すると共に面会時に積極的に話しかけ意見や不満などを聞くようにしている。又、運営推進会議や家族会(年3回)時にも同様に要望を出して頂くようにしている。頂いた意見はスタッフで協議し、改善にむけ迅速に対応している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で意見交換し、スタッフの声に耳を傾け、活かしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	2交代制で行っているが、状況の変化に応じて臨機応変に対応できるよう、人員確保や調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当会社の事業所内でやむなく異動がある際は、十分な引き継ぎを行い、入居者にスムーズに受け入れて頂けるようフォローし、馴染みの関係作りに向け取り組むようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育チェックシートがあり、フランチャイズ勉強会に参加して知識や質の向上にむけ、取り組んでいる。又、外部の研修会にも参加できるよう情報提供や、勤務体制の調整を行っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	フランチャイズ間での交流研修の機会がある。他のホームを経験する事で、学び、感性を磨く事ができる。又、ネットワークづくりにも役立っている。	○	19年度は、人員確保からの勤務調整が難しく、できなかった
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会を開いたり、話を聞いたり、ストレスを貯め込まない様にスタッフ間のコミュニケーション密にしている。又、喫煙者には苑外での場所や時間を提供している。	○	2月より互助会を発足し、食事会や旅行に向け、積み立て予定である。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフの日頃の努力や実績、勤務状況等把握できており、常に言葉かけするよう心掛け向上心を持って働けるよう努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に面接を行い、本人の要望、不安点を十分に聞く機会を作る様努め、本人が安心して利用して頂けるよう、日頃の業務の中に相談できる時間を配慮していく姿勢である。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が困っていることを聞き、苑でできる対応などを説明し、要望や不安な事を受け止め、お互いの信頼関係を築く事に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、利用者様のレベルに合った生活、必要なサービスは何なのか等、視野に入れながら説明や紹介をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の要望があれば、利用に至るまで利用者様の心理状態に配慮しながら、必要があれば体験入居期間などを設けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「ゆっくり・一緒に・楽しく・自分らしい生き方を求めて」という理念の下、残存機能を残すため利用者様のできることを一緒に発見し、喜びをともに感じたり、お互い学び支えあう関係が保てるよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会や苑行事などにもご家族に参加して頂き、楽しみをともに感じたり一緒に支えあえるような関係を築いている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	普段より本人にご家族の話題作りを行ったり面会時には間に入りスムーズなコミュニケーションができるよう、支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染み、安らぎの場になるよう、昔から使用されていた物や写真を飾るなどの部屋作りに努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は必要以上に干渉せず見守り姿勢をとっている。利用者様同士のトラブル時などは必ずスタッフが間に入り、仲裁できる。トラブルを未然に防ぐような対応をとり、お互い助け合えるような環境作りに努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去時にはいつでも遊びに来て頂けるよう説明している。2年程前に退去された家族様の訪問があったり、賀状等が届いたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のニーズを行動、訴え等で見極め、否定せず、接し方にも十分配慮している。本人のペースにあわせた支援を行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴シートを活用し、会話の中に取り入れたり活動支援を行う。又、スタッフ全員でケアプラン見直しを話し合い、一人一人にあわせたケアができています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1か月に一回、ケアカンファを行い、スタッフ全員で一人一人の日常の暮らしの流れ、心身状態・残存機能を活かした支援を行い、引き出せるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成時にはスタッフ全員で話し合い、情報収集し、又家族の方の意見を聞き、担当者でケアマネで作成している。又、家族・本人にプラン内容を説明している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じ、見直しを行い1か月毎にモニタリングをしている。状態変化時にはその都度話し合い、新規計画、追加プランを作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝のバイタルチェック、排尿チェック、口腔ケアチェックを行い、実践し、気づきにはラインを引き再検、申し送り、記録をし、スタッフ全員情報を共有し話し合いケアプラン見合おしに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況で病院付き添いが出来ない場合、家族に代わって付き添いを行ったりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察、消防等協力体制は整っている。近隣・学生のボランティアを受け入れている。民生委員、2ヶ月毎の運営推進会議に参加して頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じてケアマネやサービス事業者との情報交換や連携を図っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月毎の運営推進会議に包括支援センターの方にも参加して頂き、意見や情報交換を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員かかりつけ医をもっており、急変時等連絡がとれ、受診できる体制ができており、毎月一回の往診により状態報告を行い、医療機関との連携が出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の理解、配慮が出来ており、相談・診断・受信ができるよう、確保している。又、視界の往診も理解・配慮いただき、対応して頂く事ができている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	苑には看護職員がおり、日常の健康管理や医療活用が出来ている。又、他スタッフが相談、助言できる体制が整っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医師、看護師と話をし、退院に向けた話し合いをし、今後の対応等も家族の方も含め、話し合いが出来ている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化及び終末期の指針を家族・本人と取り交わし、そういった場合に出来るだけ早く話し合い、本人や家族の意向を取り入れながら、医師とも話し合い、対応方針の共有化を図っていく。重度化、終末期マニュアルも作成されている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師・看護師、職員間で話し合い、具体的な内容を検討し、対応方針の共有化を図り、統一した対応を行っていきけるように努めている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前に本人・家族の方と話し合い、情報を得て今までにいた環境に近くなるよう、馴染みの物、使っていた物を持参できるよう整備し、住み替えによるダメージを最小限に留まるよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフ一人一人が入居者を尊敬、尊重した言葉使いをし、否定しないケアを行っている。個人情報の取り扱いについては玄関に掲示し、職員とも契約を交わし徹底を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の能力に合わせた説明を行い、自己決定ができるよう支援を行っている。食事の献立や、服選び等。又、言葉での表現ができない方は表情、行動等で察知できるよう観察力を身につけ、情報交換し話し合いを行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「ゆっくり、一緒に楽しむ」をモットーに利用者の能力、ペースに合わせた支援を行い希望にそったケアを可能な限りおこなっている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の望む店へ行けるよう支援出来ている。又、苑内でのカットは本人、家族との話し合いができています。服装、身だしなみ、本人に選んで頂き、出来ないところはさりげなくフォローを行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えたり材料を切ったり盛りつけたりセッティングをして頂く意欲を引き出す。言葉かけを行ったり行動をしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人に望む嗜好品を聞き、提供できるようにしている。又、ドクター指示により接種が限られている方にはスタッフ全員が把握しており、提供できている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人排泄チェックを行いパターンを周知し、さりげないトイレ誘導を行い、個々に応じて日中・夜間時リハビリパンツ、パット使用にて対応している。又、便意尿意なくともトイレへ座って頂き腹部マッサージ、腹圧等を行い、トイレで排泄を気持ちよくできるよう支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調や状態にあわせ、本人の希望やタイミングに合わせて入浴が楽しめるよう入浴剤を入れたり順番の考慮等行っている。又入拒否の強い方には無理強いせず時間を置いたり後日に延期したりと配慮している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、残存能力を活用しながらの日中の活動支援を行い、良眠につなげる事が出来るよう支援し、又ドクター相談を行い、眠剤や助言等をして頂き安心して眠る事が出来るよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩や買い物で楽しんで頂けるようにしています。生活歴や残存能力を活用した日常生活、活動(材料や洗濯等)を楽しめるよう会話を持ちながら行っています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の要望家族の理解を得て、3名の方が個人で所持されている。本人が望めば近隣スーパーへの付き添いを行っている。又、所持されていない方でも買い物に行った際には、力量に応じてお金を渡し金銭感覚が落ちないように取り組んでいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩しながらの近所への買い物や庭へ出て草取りをしたり、洗濯物をほしたりと、車椅子でも独歩でも一人一人の能力、希望に応じて戸外に出かけている。又、1ヶ月に一回のバスハイクでの外出を設けている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	以前からの行きつけの八百屋や、住んでいたアパート住民に会いに行ったり、空き家となっている自宅へと、外出支援をおこなっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話があったとき、本人に代わって話をして頂いたり、遠くの家族からの手紙の返事を書いて頂くよう、支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族だけではなく、誰でも気軽に訪問できるよう、利用者との間に入りコミュニケーションが取れるようにしたり、全スタッフ笑顔で対応できるように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が理解し、又身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が鍵をかけることの弊害を理解し、鍵をかけていない又は戸外への出入りは必ず見守り、同行し安全に努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	必ずスタッフ一人は利用者の所在、安全を見守れるようにし、夜間巡回を行い、所在・安全を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は施錠できるところで管理・保管している。洗剤・包丁などは決められた保管場所・管理方法があり、毎日実行している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災訓練などを行い、毎月勉強会を開き学習している。格個人が服用する薬も全スタッフに周知しており、マニュアル作成ができています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	月一回ある勉強会にて学習し、緊急体制マニュアルを常時見れるようにしている。普通救命講習を受けた職員が在籍している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の訓練として、年2回消防訓練を行っており、近隣の方々にも災害時の協力を依頼しており、同系???での協力体制も確保している。	○	災害時の備蓄品を準備していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	今後想定できるリスクや状況を家族、担当医・職員で話し合い、私たちの出来る事を説明し、ご家族にも協力を頂き一緒に対応していつている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	食事量・バイタルチェックを毎日行い、変化や異常サインは職員間の申し送りをはじめ記録に残し、状況に応じ看護師への報告・病院受診を行い常に職員間での情報の共有化に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	取扱、副作用等、薬剤師より指示を受けた場合職員全員への申し送りを徹底。薬包一つ一つに名前・日付を記入し、正しく服用できるように管理している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食事の提供に心掛け、水分補給をこまめにし、予防に努めている。また、体を動かすよう運動を職員と共にして頂き、予防に努めている。又必要に応じて医師の指示の下腸整剤や下剤なども使用している。毎日排便チェックをし、周期の理解に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを個人の能力に合わせて必ず行い、不十分なところは介助している。義歯の消毒を週1回、日曜日に行い、又週一回水曜日にしか往診あり、口腔内の清潔保持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	使用食品一覧を作成し、栄養バランスが偏らないようにしている。残食量のチェックを行っている。管理栄養士に献立内容のアドバイスや、個人に合わせた形態や量を提供できるようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがあり、スタッフ間で周知徹底に努めている。感染症が流行する時期には勉強会を開き、職員の意識付けを行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮で安全な食材の提供を行っている。手洗いの実施、調理用具の、毎日の消毒を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	民家改修型ホームである為、家庭的な雰囲気であり、玄関前には花壇があり、地域住民と一緒に花を育てている。現在はサザンカの花が咲いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しを多く取り込み苑周りを明るくするように努め、壁には毎月利用者様と季節感のある作品を作成し掲示している。また季節感を感じれるようお花を飾ったり、置物を設置したりと、雰囲気作りに心掛けている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの日当たりの良い場所にソファを置き、利用者様同士で自由に過ごせる場を作っている。又、一人になりたいであろう方には一人掛けソファを提供し、場所や向きに配慮し、一人空間を工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の使い慣れたものやアルバム等持ってきていただき、安心して生活できるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室の空調設備は整っており、空気の入替えをこまめに行いながら、十分な配慮を行っている。温度計、湿度系の設置もしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差なくバリアフリーになっており、廊下には手すりを設置している。又、居室内にも動きやすく安全に過ごせるように配慮している。ただ玄関だけは段差が付いており、利用者の出入り際には十分注意を払っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の理解力を認識し、思い込みによるトラブル・錯覚等がないよう、支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	構造上の制限はあるが、洗濯物を干したりする場所、狭いながらも花壇(畑)もある為、活動できるように活かしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念の一部にあるように、「ゆっくり」「一緒に」「楽しむ」をスタッフ皆が心掛け、入居者様の残存能力を活用しながら取り組んでいる事。